

WEEKLY SIGNAL

平成27年12月11日(金) 1303号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/14(月)	12/15(火)	12/16(水)	12/17(木)	12/18(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	△ 1,600	△ 2,000	△ 3,000	△ 4,000	△ 4,000
財政他	△ 5,600	+ 53,000	+ 3,000	+ 1,000	+ 2,000
資金需給	不 7,200	余 51,000	トシ	不 3,000	不 2,000
主要要因	源泉税揚げ 国庫短期証券発行・償還(3M)	年金定時払い 国債発行・償還(2年)		交付税特会借入・償還	
オペ期日	CP等買入 △ 300 社債等買入 △ 100	共通担保(全店) △ 8,200	貸出増加支援 △ 500		共通担保(全店) △ 9,200
オペスタート	ETF買入 + 200	短国買入 + 5,000 国債買入 + 7,700 共通担保(全店) + 8,200			
(日本)	短観(12月概要、12月要旨) 日銀営業毎旬報告 (12月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	短観 (12月業種別計数、 「企業の物価見通し」の概要、 12月調査全容)	企業物価指数・2015年基準 改定の基本指針(日銀) 業態別の日銀当座預金残高 (11月)	日銀金融政策決定会合(1日目) 貿易収支(11月) 対外対内証券売買	日銀金融政策決定会合 (2日目) 黒田日銀総裁記者会見
(海外)	欧 ユーロ圏鉱工業生産(10月) 欧 EU外相会合(ブリュッセル)	米 FOMC(1日目) 米 NY連銀製造業景況指数 (12月) 米 CPI(11月) 米 NAHB住宅市場指数(12月)	米 FOMC(2日目、 経済予測公表) 米 イエレンFRB議長の記者会見 米 MBA住宅ローン申請指数 米 住宅着工件数(11月)	米 経常収支(7-9月) 米 新規失業保険申請件数 米 景気先行指標総合指数 (11月) 欧 ECB経済報告 欧 EU首脳会議(ブリュッセル) 独 Ifo景況感指数(12月)	米 リッチモンド連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.050 ~ 0.120
SPOT 2M	0.110 ~ 0.155
SPOT 3M	0.117 ~ 0.160
SPOT 6M	0.120 ~ 0.170

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初239兆円台から始まり、国庫短期証券買入オペ・国債買入オペ等により9日に241兆円台まで増加した後、発行要因から10日に239兆円台に減少し、240兆円台で越えた。
無担保コールON物は、週を通して0.07%台後半の取引が中心となり、試取りにより一部0.12%台が出合う日もあった。同金利の加重平均は0.076~0.077%の狭いレンジで推移し、ターム物は1~2W物0.11%台の出合いが見られた。
4日発表された米雇用統計では、非農業部門の就業者数が前月比21万1,000人増加と、2か月連続で増加幅が20万人以上となり、米経済の回復傾向が裏付けられる格好となった。
来週の材料として、国内は短観(12日)や日銀金融政策決定会合(17・18日)、海外ではFOMC(15・16日)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.025 ~ 0.065
TDB 3M	△ 0.005 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約11,100億円で、期落ち額約8,700億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。電機やその他金融をはじめ、幅広い企業で大型発行が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.060%台半ば~0.080%台前半で推移した。現先レートの中心は、0.050%~0.100%程度で推移した。
来週の期落ち額は約8,200億円程度となっている。今週に引き続き、年末の調達増が期待される。

<TDB>

10日に国庫短期証券3M第576回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0221%(前回債△0.0502%)、平均落札レートは△0.0353%(前回債△0.0644%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.015%近辺の出合い、6Mは△0.085%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週16日に1Y、17日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは先週末に引き続き0.025%近辺の出合から始まった。8日にはTDB6 Mの入札が行われるも、SNの段階では同水準で推移。しかし翌日のTNではレートが大きく上昇し、0.08%台の出合も見られた。その後、週央にかけては概ね0.05~0.07%のレンジで推移。11日にはTDB3M・流動性供給入札が行われるも上昇の動きは見られず、翌日のT/Nでは0.04%台まで出合が見られた。週末には短国・国債買入オペが合計 1兆 2700億円 オファーされたこと等から、レートが低下し0.03%近辺の水準で越えた。
SCは10年331・336回債がON物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。2年債は358回債、5年債は118・120回債、10年債は327・328・329・331・335・336・338・339・340回債、20年債は150・152・154回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。